

令和 6 年 第 5 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和6年4月22日（月）

開会午後1時00分、閉会午後2時15分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番 坪池 宏

2番 黒田 卓

3番 大西 ゆかり

4番 村上 美也子

5番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

水落 仁

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

小杉 健

参事・教育企画課長

板倉 由美子

教育参事・教育みらい室小中学校課長

山尾 佳充

教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

生涯学習・文化財室長

辻 ゆかり

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長（高校跡地活用・学校施設担当）

中家 立雄

教育企画課課長（ICT教育推進担当）

小林 匠

教育みらい室課長（県立高校改革推進担当）

嶋谷 克司

教育みらい室課長（児童生徒支援担当）

富川 展行

生涯学習・文化財室次長・課長（振興担当）

前川 秋人

生涯学習・文化財室課長（家庭成人教育担当兼青少年教育担当）

河原 千里

保健体育課課長（食育安全担当）

松嶋 保子

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和6年3月18日開催の令和6年第4回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 議決事項

議案第9号 令和7年度高等学校入学者選抜における南砺平高等学校での全国募集の実施の件

県立高校改革推進課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

- (1) 臨時代理について（富山県教育委員会行政手続等における情報通信の技術の利用に関する規則一部改正の件）
- (2) 臨時代理について（富山県教育委員会文書管理規程一部改正の件）
- (3) 臨時代理について（富山県立学校文書管理規程一部改正の件）
教育企画課長から説明した。
- (4) 公立幼稚園の廃止について（砺波市）
小中学校課長から説明した。
- (5) 第6回県立高校教育振興検討会議の開催結果について
- (6) 富山県立高校魅力PR動画の公開について
県立高校改革推進課長から説明した。
- (7) 令和6年度富山県公立学校新規採用教員配置状況について
教職員課長から説明した。

- 4 今後の教育委員会等の日程について
教育企画課主幹から説明した。

5 議決事項

午後1時42分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定に基づき、議案第10号から議案第12号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第10号 令和6年度富山県教科用図書選定審議会委員委嘱（任命）の件

議案第11号 令和7年度使用義務教育諸学校用教科用図書の採択に係る諮問事項の件

小中学校課長から説明し、原案のとおり可決した。

議案第12号 審査請求に係る裁決に関する件

教職員課長から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第10号から議案第12号については、適切な時期に公表することを決定した。

6 議事

○議案第9号関係

〔牧田委員〕

・この取組み、全国募集するということは大歓迎だ。ただ、今回は南砺市からの提案を一部受け入れての実施だと認識しているが、子どもまんなかに据えていくと、子ども達は切磋琢磨しないと伸びない。大人でもそうだが、ある程度の切磋琢磨するための環境が必要だと思っている。そういった意味では子ども達が減っていくなかで、県立高校において定員割れが散見される現実を踏まえれば、こういう特別な学校だけではなく、いわゆる県内で進学校と言われているようなところも含め全国募集をかけていってもいいのかなと思う。我々はこれまで県立高校の中でだけしか物事を考えていないが、全国的な流れは私立と公立というところでの競合があるわけで、富山県だからといって公立で県内の子ども達を全部抱え込むというスタンスでは、おそらく今後迫り来るであろう私立進学校との競争に負けてしまうと思うので、公立はやはり早い段階から全国募集をするのも一つだと思う。もう一つは、今回は南砺市の協力がある成り立っているのだが、基本的にビジネスの世界もそうだが、子ども達と学校とのニーズとシーズのマッチングが大事だと思う。今回は南砺平高校のシーズがあって、子ども達のニーズを満たすから成り立っているわけだ。そのマッチングが長く続かないと意味がない。今は盛り上がって休業日の下宿先を確保したと言っているが、5年後には子ども達を受け入れることができなくなれば、だんだん南砺平高校の魅力がなくなってしまい、この事業はうまくいかなくなる。このあたりの永続性、サステナビリティみたいなところが少し懸念事項として残ると思うので、

そのあたりのバックアップはきちんとしていただきたい。

〔教育長〕

・南砺市ともしっかりやっていかなくてはいけないと思う。そのためにもいち早く募集等の対応にとりかかりたいということで、4月のこの時期に議案としてかけさせていただいた。継続性ということについてはこれから順次積み上げていっていいところは伸ばす、足りないところはフォローしていくという姿勢が必要だと思う。

〔黒田委員〕

・私も全国募集に賛成だ。選抜方法は特別な入試方法を用意するのか、それとも従来の枠の中で実施するのか。

〔県立高校改革推進課長〕

・実施方法などについては内部で協議しているところだ。この時点で今決まっている共有情報はない。

〔黒田委員〕

・全国規模での試験になるので高校生に来ていただいてということももちろん可能だと思うし、何か別の方法も考えられるとも思う。

〔坪池委員〕

・今の在校生はこのことをどうとらえているのか。

〔県立高校改革推進課長〕

・これまでは学校の先生などと受け入れに向けた準備、相談をしてきたが、決定ということになれば学校の方では今後の生徒等への説明もしていきたいとのことなので、そのあたりはしっかり取り組んでいきたい。

○報告事項(6)関係

〔牧田委員〕

・動画を見てみたが、STEAM教育って何？という動画のSTEAMについての説明についてだが、動画作成の順番はどうなっているのか

〔県立高校改革推進課長〕

・すべて同じタイミングで作成した。

〔牧田委員〕

・一つひっかかったのは、STEAMのA、リベラルアーツのところで、mathematicsやscienceといった理系の学科とリベラルアーツという文系の学科という説明がされているが、これは間違っている。ハーバードやスタンフォードを見てきた私にとっては看過できないリベラルアーツの解釈だ。これは完全に間違いだ。リベラルアーツが文系学科という定義をすると世の中のリベラルアーツ学校から抗議をしてくると思うので、すぐに直した方がいい。例えば高校別の動画があって富山高校と高岡高校を見たが、その中にSTEAMとは、とあって、それは様々な教科横断的となっていて、文系理系という分け方にはなっていないので、どちらの動画を先に作ったのかと思ったわけだ。リベラルアーツの解釈は間違っているので、STEAM教育って何？というところは早急に改めたほうがいい。まだ再生回数は少なくても800~900回くらいのレベルなので炎上することはないと思うが、注意してほしい。

〔県立高校改革推進課長〕

・確認する。

〔牧田委員〕

・もう一つ、せっかく動画なので動画的な言葉を使ってほしい。例えば自学という言葉が出てくるが、自学とは文語体なので動画だったら自ら学ぶでいいと思う。まして高校生が見るとなったら、専門用語がいっぱい出てくるし、いかにも教育委員会が作りましたという文章で、議会答弁のような言葉が流れてくると耳に入らないと思うので気を付けてほしい。

○報告事項(7)関係

〔村上委員〕

・新規採用の教員の件で、関係あるのかと思うが、最近神経発達症の子どもたちが増えてきていて、就学前に

できるだけの支援を行うために今年から5歳児検診というのも国で定められるようになる。その結果支援を必要とする方がさらに増えてくるのではないかという見込みもあり、一人一人に応じていろいろ切れ目なくやっていく際に、現場の先生の手がもっと必要ではないかと思う。もう少し柔軟に対応することはできないのかと思う。現場の負担を、我々医療現場だったり教育現場だったりも理解がついていけないということを感じている。今後そういった話があれば教えてほしい。

〔教職員課長〕

・特別支援教育の充実については県でも重視しており、国の加配措置や定数の増については重要要望というかたちで要望している。特別支援学級や、特別支援学級に入るレベルではないが何らかの通級指導というかたちで支援が必要な子どもが増えてきており、そういったことに柔軟に対応できるような定数措置についても国に要望していきたいと考えている。国において定数が加配措置されれば、小学校の定数の増あるいは人員の増に努めていきたい。

〔大西委員〕

・今年新規採用された新卒の先生方も早速担任を務めておられることになると思うが、新卒の先生の中には週1回の新卒教員の指導では足りないという声を聞いた。去年も同じようなことを言ったかもしれないが、新採の先生の負担や不安を少しでも軽減して教員に定着してもらえるように、また子ども達も安心して授業を受けられるように、例えば新卒の先生に関しては再任用の先生と二人体制で一年間並走するような形で担任をしてもらうとか、新しく先生になった方が長く先生という職業に熱意をもってしっかりと務めることができるような体制づくりを考えてほしい。

〔教職員課長〕

・サポートをする教員についても各学校で配備しているが、最初の段階で精神的に参るようなことがないように各学校で教頭を中心にサポートをしている。市町村教育委員会の方から個別に情報があれば、どう対応するか、検討していきたい。

〔坪池委員〕

・初任者研修に臨んだ時の感想だが、多くの初任者は例えば学力差についてどう対応したらいいのかということ研修で投げかけてくるが、それはベテランの教師でもできないことだ。それが5年目、6年目になるとやり過ごすというふうまく乗り越えていくものだが、初任者が抱えているものが大きすぎるとそれは問題なので、大きな課題を抱えずにいる初任者には、あまりいい加減なこととも言えないが、そのうち何とかなるとかというような何か安心させるような工夫が必要だと思う。

〔教育長〕

・初任者には何人に1人ついているのか。

〔教職員課長〕

・国の配置では6人に1人だ。

〔教育長〕

・各学校でどのようなフォローができるかということも含めて、教育現場に限らずどのような現場でもドロップアウトする人がそれなりにいるという環境がある中で、そういった人をどう育てていくかというのは組織として継続していくために大変重要なポイントだ。以前から重要だが最近は特にそうなっているということを感じるので、校長とも話し合っていきたい。

〔牧田委員〕

・釈迦に説法だが、フォローとして一番重要なのはチームワークということだ。先生方の世界はほとんどチームワークを発揮する組織になっていないし、そういった訓練も受けていない。今度そういった研修などを組むのであれば、チームワークをどう作っていくのかということが大切になると思う。

午後2時15分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。